



歌う尼さん やなせ なる

観音堂御開帳供養
期 日 平成二九年十月一七日(火)
午後二時打出し
会 場 松源寺本堂
並びに秋の夕べコンサート
時 間 午後二時三〇分
会 場 永松閣(庫裏二階)
参加費 五〇〇円

プロフィール
シンガーソングライター
一九七五年 奈良県の寺院に生まれる。
二〇〇四年五月 シングル『帰ろう。』でデビュー。これまでに五枚のシングルと四枚のアルバムを発売。CMソングやゲームのテーマソング、劇中歌などに起用される。その一方で、YAMAHA『音遊人』エッセイ連載(二〇〇六年〜)、ラジオのレギュラー番組DJ(Date fm 二〇一二年〜)、仏教講座講師など多彩な活動を展開。三〇歳で子宮体ガン

永松だより

松源寺通信 第11号

松源寺開創 500年
平成33年・2021年
みなさまのお知恵とお力を合わせていただき
この佳きめぐりあわせを寿ぎましよう

を克服した経験と、寺院に暮らす僧侶という視点を生かし、いのちの尊さを訴える歌を数多く制作。慈しみに満ちた唯一無二の世界観、美しいメロディ、包容力のある歌声が持ち味で、年代・性別を超えた幅広い層から確かな支持を獲得している。また、涙あり笑いありの巧みなトークと、胸を打つライブパフォーマンスが話題となり、全国四七都道府県・およそ五〇〇ヶ所での公演において成功を収めた実績を持つ。
地道な活動が目され、二〇一一年三月、日本テレビ『Nニドキュメント』「歌う尼さん」が闘病から奏でる命」として、二〇一二年九月にはNHK『ワタレ「グランジユテ」にて全国に放映され、大きな反響を呼んだ。その活躍が認められ、母校・龍谷大学校友会より龍谷奨励賞を授与されている。

道元禅師の花鳥風月 ―溪―
峰の色溪の響きも皆ながら
吾が釈迦牟尼の声と姿と
道元禅師
蘇東坡居士の偈に「溪声便是広長舌 山色無非清浄身」夜来八万四千偈 他日如何拳似人」がある。大意は「溪の響きはそのまゝ釈尊の説法、山色は釈尊のお姿。夕べから数限りない仏賛歌を聞いたが、その内容は人に伝えることができないほど、筆舌に尽くし難い感激である」ということである。
道元禅師はこの偈をうけて、聞溪悟道の因縁を説いている。「正修行のとき、溪声溪色、山色山声、ともに八万四千偈をおしまざるなり。自己もし名利心身を不惜すれば、溪山また慙慙の不惜あり」(『正法眼蔵 溪声山色』)
現代にあつて、居士や禅師が見た山色や、聞いた溪声は果たしてあるのかどうか。清浄本然なる山河大地があるとして、我が身が名利にとらわれてはならない。清浄でなければ、自然は何も応えてはくれない。
我々は自身の身勝手な損得だけで、自然に手を加えてきたことに、うしろめたさを感じているだろうか。
この大自然が仏そのものだという清浄心で、日常底を行っていくなら、それが我々にとっての正修行であり、悟道への第一歩かもしれない。

第3回 青葉土樋防災訓練
〔松源寺ががんばる避難所〕
主催 松源寺
青葉土樋町内会

期 日 平成二九年七月十日(月) 午後三時〜五時(小雨決行)
場 所 松源寺 第二駐車場/本堂
内 容 消防訓練・炊出し訓練(豚汁・アルファ米)
発電機操作訓練など
体 験 AED講習・消火器訓練・車いす介助訓練など

〔参加者〕 近隣の皆様・子供会児童の皆様・お寺関係の皆様

いつ、どこで起こるかわからない自然災害(地震・水害・がけ崩れ)に対しては、日ごろの訓練が大切です。昨年、松源寺が「がんばる避難所」として登録し、防災訓練を行いました。

今年には仙台空襲から七十二年。宮城県沖地震から三十九年。東日本大震災から六年四か月が経ちました。震災の教訓の風化が懸念されています。地域連携!、皆様のご参加をお願い申し上げます。

◎当日は戸締り・交通事故に注意し、動きやすい服装で参加しましょう!

消火器訓練
AED救命訓練
炊き出し訓練

仏具紹介 数珠・念珠

数珠は「珠数」「寿珠」などとも書き、全国的に広く普及している法具(仏具)です。
仏教のお経や念仏を唱える際、その回数を数える為に使われることから、念珠とも呼ばれます。
数珠を持ち心を込めて合掌をする事で、御仏と繋がり、煩惱が消え功徳を得ると言われています。

【数珠・念珠を持つ意味】
人間には百八の煩惱(ぼんのう)があるといわれています。数珠珠の一つずつが百八の煩惱を司る仏様であるとされていますので、人間のあらゆる煩惱を念珠が引き受けてくれます。古来より厄除け、お守りとしての役割もあります。

【数珠・念珠の誕生】
数珠の起源については、諸説があります。一説によると、発祥の地はインドで、お釈迦様のアドバイスより始まったとされています。これは、その時代のインドにて、人生に悩む王が、煩惱を消す方法を助言してほしいと求めたところ、「二〇八個のムクロジの実をつないで輪をつくり、仏法僧を唱えつつ、その実を一つ一つ繰ることで、煩惱が消えていく」と説かれたという記録です。その後、仏教の布教の流れの中で様々な宗派が生まれ、日本へは中国を経由して鎌倉時代に伝来したとされています。

【珠(たま)の数】
多くの宗派の正式な念珠は、一〇八個の玉(珠)で組まれています。除夜の鐘の回数でも知られているように、一〇八の玉は人の煩惱の数を表し、最も功德がある数とされます。現在においては、数珠玉の数の制限はなくなりつつあり、寸法に合わせてその個数が決められる『略式の数珠・念珠』も幅広く普及しております。

本をよむ 心の食
第8回
千葉公慈 著
河出書房新社 定価1300円(税別)

心と体が最強になる 禅の食
千葉公慈
曹洞宗宝林寺住職
駒沢女子大学教授

1964年生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科博士後期課程を満期退学。駒沢女子大学教授。専攻はインド仏教教理学だが、民俗学や日本人の思想にも造詣が深い。曹洞宗宝林寺(千葉県市原市)で住職を務めながら、テレビ、ラジオ、雑誌、講演等で仏教の教えやそれをベースにした生き方を説き、好評を博す。著書には累計7万部を突破した『知れば恐ろしい日本人の風習』をはじめ、『仏教から生まれた意外な日本語』『そうだったのか!お寺と仏教』(以上、小社刊)、『心の花を咲かせる言葉』(双葉社)、『運がよくなる仏教の教え』(萩本欽一との共著、集英社)など。

平成29年度研修旅行 報告



千葉県勝浦 遊覧船



葛飾柴又 寅さんと



茨城県安禅寺さまと



誕生寺さま山門前集合



柴又駅前さくらさんと



安禅寺さまでの茶話会

旅行行程表

期 日	行 程	宿 泊 地
6/4 (日)	7:30 松源寺 ――― 長町I.C ――― 仙台南部・常磐道 ――― 成田I.C ――― 12:00 成田山門前・米屋 Ⅱ	小湊温泉 鴨川 ホテル 三日月
	----- 13:30 成田山新勝寺 ――― 〈九十九里浜〉 ――― 15:30 鯛ノ浦遊覧船 ――― 16:20 小湊温泉	
6/5 (月)	8:30 ホテル ――― 館山・京葉道 ――― 市川I.C ――― 11:00 柴又帝釈天・ショッピング Ⅱ ――― 12:30 久喜I.C ―――	
	----- 14:00～15:00 五霞I.C ――― 安禅寺 ――― 五霞I.C ――― 東北自動車道 ――― 宮城I.C ――― 19:00 松源寺	

祠堂法要案内

期 日 十一月六日（月）
午前十時三十分打出し

当寺ご開山大光源可大和尚さまを初め歴代の住職・開基の白河義綱公より檀信徒のご先祖さまの御霊に報恩の供養を致します。例年ご法話をお聞き頂いております。

盂蘭盆大施食会

期 日 八月十四日（月）
午後一時三十分打出し

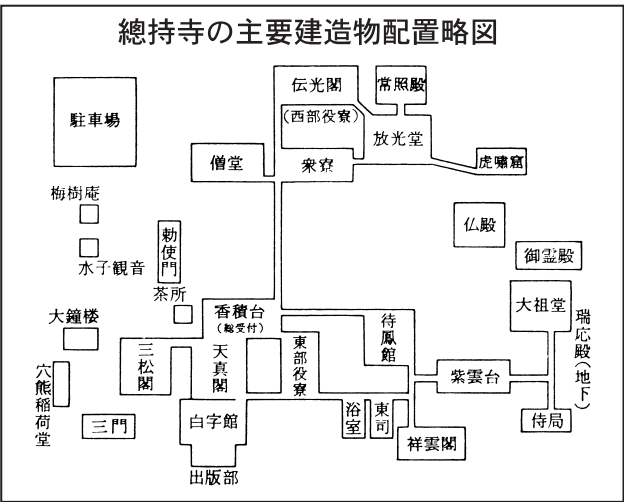
ご先祖様や先亡精霊・東日本大震災物故者・水子の精霊等有縁無縁の三界萬霊に供養を施すお勤めです。新たにお盆を迎える新盆の諸精霊に回向致します。

太祖瑩山禪師略伝



瑩山禪師（けいざんぜんじ）

瑩山禪師は一二六四年（一二六八年の説もある）、越前にお生まれになり、八歳で永平寺に入り三世義介（ぎかい）禪師のもとで修行を始めました。
十三歳で二世懷辨（えいしょう）禪師について正式に僧となると、瑩山紹瑾（じょうきん）と名を改め、十九歳になると諸国行脚（あんぎや）の志をたて、求道（ぐどう）生活に精進されました。
そして三十五歳のとき、義介禪師の後を継いで加賀国（石川県）の大乗寺住職となり、二年後に『伝光録（でんこうろく）』をお示しになりました。



た。その門下には優れた人材が集まるようになり、曹洞宗が発展する基礎が築かれました。また、五十歳で能登に永光寺（ようこうじ）を開き、そこで『坐禅用心記（ざぜんようじんき）』を撰述されたといわれています。
その後、五十八歳のとき諸嶽寺（もろおかでら）を寄進されると禪院に改め總持寺と名づけました。一三二四年、六十一歳のとき總持寺の住職を峨山（がさん）禪師に譲られ、翌年六十二歳でそのご生涯を閉じられました。

年 次	西 暦	
文永 五	一二六八	越前多瀬邑瓜生家の長子として生まれ、幼名行生。永平寺に上り、義介禪師の下、沙弥となる。
建治 元	一二七五	義介禪師の命により、孤雲懷奘禪師について得度。諸国行脚の途に上り、宝慶寺寂円から京都を経て、叡山に天台を学ぶ。
弘安 三	一二八〇	紀伊国由良興国寺の心地覚心に参ず。再び宝慶寺を訪ね、ついで永平寺義介禪師の下に帰省。
正応 二	一二八八	義介禪師に従い加賀大乗寺に移る。
正応 九	一二八六	義介禪師「平常心是道」の話を挙するを聞き大悟。翌年嗣法。
永仁 二	一二八九	阿波国城満寺を開く。
正安 六	一二九八	城満寺より大乗寺に帰る。
正安 元	一二九九	義介禪師に代わり五十二祖の機縁を拈提、後に『伝光録』という。
乾元 元	一三〇二	大乗寺二世となる。
応長 元	一三一一	加賀に浄住寺を開く。
正和 二	一三二三	能登に永光寺を建つ。
元応 二	一三二〇	後醍醐天皇、孤峰覚明をつかわし、十種の勅問あり、奉答す。
元亨 元	一三二二	能登櫛比の庄に諸嶽山總持寺を開く。
正中 元	一三二四	後醍醐天皇、總持寺に日本曹洞賜紫出世之道場の綸旨を賜う。
二 元	一三二五	總持寺を峨山禪師に譲り、永光寺に帰る。この年、『瑩山清規』を撰す。病をえて、永光寺に示寂。

太祖瑩山禪師略年譜